

南郷上ノ山公園から二子山



3～4月、グランドやその周辺にはツグミやモズが、二子山山頂への草地ではアオジなどが見られますが、4月になると少なくなります。かわって4月中旬頃からはキビタキのさえずりが聞こえるようになります。ホオジロ、メジロ、シジュウカラ、ヤマガラ、コゲラ、アオゲラなどは1年中見ることができます。

長柄から大山林道（森戸川上流）



3月にはアオジ、クロジ、シロハラなどが見られますが、森は静かです。3月下旬頃からはウグイスやメジロがさえずり始め、4月になるとセンダイムシクイ、ヤブサメ、オオルリが渡来してさえずります。5月になるとサンコウチョウが渡来します。

上山口小学校付近



下山川には1年を通してカワセミやキセキレイが見られます。3月には田畑ではツグミやモズが、草地や疎林ではホオジロやアオジが、上空にはタカの仲間のノスリの姿も。アオサギやカルガモといった水鳥も見ることができます。

写真・情報提供 鈴木茂也氏

葉山の野鳥

葉山は鳥の棲み家には最高の場所
山に里に海にさえずりながら暮らす鳥の
声に春を満喫



2018年3月25日発行 第32号
認定 NPO法人 葉山まちづくり協会
〒240-0112 三浦郡葉山町堀内1874
町立図書館 2階
TEL&FAX 046-876-0421
e-mail: o ce@hayama-npo.or.jp

葉山まちづくり協会

検索

芝崎海岸から長者ヶ崎



3月にはユリカモメやセグロカモメなどが、ゆっくりと海上を飛び、海面に浮かんでいて潜水する黒い鳥はカウウやウミウです。5月には磯にキアシシギ、キョウジョシギ、チュウシャクシギなどの旅鳥が見られることもあります。沖には海洋で暮らすオオミズナギドリも見られますが、風の強い日には岸近くまで来ることがあります。

3月～5月に葉山で見られる
野鳥と観察ポイント

3月には留鳥（1年中葉山で見られる野鳥）と冬鳥（越冬のために渡来する渡り鳥）が見られ、4月になると夏鳥（夏を過ごし繁殖する渡り鳥）が加わります。

また、4月中旬から5月中旬にかけては、南から北へと通過する旅鳥（繁殖も越冬もしない渡り鳥）も立ち寄ります。冬鳥は徐々に少なくなり、5月になるとほとんど見られなくなります。

留鳥は早い種類では3月から繁殖を開始します。

2018
5/25金
～27日

第18回

葉山まちづくり展

会場：葉山町福祉文化会館ほか

10:00～17:00 ※最終日は16:00

町の公式アカウント（hayama_official）と葉山まちづくり展（hayamahayama）がコラボ。皆さんもInstagramに「#葉山歩き」「#葉山は楽しい」をつけて投稿すると写真展に採用されるかも！
5/14（月）～5/23（水）：役場ロビー
5/25（金）～5/27（日）：福祉文化会館

今回のテーマは「知って楽しむ葉山ライフ」。

葉山ならではの文化や自然環境を守り育てるために活動しているさまざまな団体が皆様のお越しをお待ちしています。今まで出展したことがない新しいグループの展示やイベントも数多くご覧いただけます。イベントやワークショップに参加すれば、葉山の楽しさをもっともっと体験できることうけ合いです。

はじめての試みとして3日間の「葉山まちづくり展」をゆったり和やかな雰囲気の中で楽しんでいただこうと、地元の食材を使ったお食事やお菓子を販売するお店に参加していただきます。ランチやスイーツなどを食べながら楽しく過ごしていただける場になることと思います。ぜひ皆さま、お問い合わせの上お越しください。

葉山の自然（海・山・里）を守る

林道歩き、三浦三山へ、イノシシ対策、葉山の海を楽しもう！
棚田見学会など

歴史を知る、文化を育てる、
声を出す、体を動かす

一色地区の文化財巡り、古墳見学会、みんなでうたおう♪、詩吟教室、盆踊り体験、ヨガ、和太鼓、お囃子、空手、ふるさと絵屏風など

体験する、食す、くつろぐ

磯の生き物タッチプール、ひと箱ぶつぽつ交換市、囲碁将棋、マウンテンバイク乗り方教室、屋台料理でランチなど

聴く、ふれあう、考える

「自然フォーラム」「葉山の交通バリアフリー」、三浦半島活断層、はま防災ネットワークなど

詳細は5月5日の「葉山まちづくり展」チラシをご覧ください。

「葉山まちづくり展」は「葉山芸術祭」と相互協力しています

第26回葉山芸術祭 <https://www.hayama-artfes.org/>

会期：2018年4月21日（土）～5月13日（日）

会場：葉山・逗子・横須賀・鎌倉各地でのオープンハウス、店舗、展示場、屋外 他

26th Hayama Art & Music Festival
2018.4.21.sat.～5.13.sun.
More Info. > [hayama-artfes.org](https://www.hayama-artfes.org/)

葉山まちづくり協会

館 ギャラリー NEWS



現在 6/19～6/24、6/26～7/1 を募集
対象 協会会員（年会費 1000円）
展示 表現してみませんか？
使用料 1単位（6日間10時～17時半）につき500円。
（設備・備品使用料として）

認定 NPO 法人 葉山まちづくり協会
葉山町堀内 1874 葉山図書館 2F
tel&fax: 046-876-0421
e-mail: o ce@hayama-npo.or.jp
<http://www.hayama-npo.or.jp>



貸しギャラリー
はじめました！

「わたしの家族」
ペット大募集！

まちづくり館ギャラリー展示
「わたしの家族 葉山のペット大集合！」で、うちのペットを紹介してみませんか？
ご協力いただける方はペットの名前・種類・性別・エピソードに写真を添えて、飼い主のお名前とご連絡先を明記の上、葉山まちづくり協会までメールまたは郵送でお送りください。直接のお持ち込みも大歓迎！





葉山・山楽会

さんがくかい

山を知り、山を楽しみ、山を守る

豊かな自然に恵まれた葉山は海だけでなく山も大きな魅力がある。昨今の登山ブームと健康志向も相まって、近隣地域だけでなく関東全域からたくさんの人が葉山の山を歩きにやってくる。訪れた人が安全に山歩きを楽しみ、葉山の山の素晴らしさを知り、親んでもらおうと活動を続けている団体がある。「葉山・山楽会」だ。現在会員36名、「山を知り、山を楽しみ、山を守る」を合言葉に、毎月いろいろなコースを選んで葉山の山を歩き、ルートの整備や保全活動を行っている。

会の始まりは平成11年、葉山町が「町の資源の発掘と活用」を目的に『くれ竹の郷』構想を打ち出したとき、その呼びかけに応じた人々が何人もいた。彼らはいろいろな分野での活動を目指して集まり、いくつかのグループができた。その中で山に関する活動を希望した6名が作った会「ルート山」が葉山・山楽会の前身だ。活動はまず山に親しんでもらうた



毎月の定例会でルートを検証

めのルート作りから始まった。毎週、山に入り、昔ながらの山道を山歩きルートとして安全に歩けるよう危険箇所を確認し、草を刈り道を広げ、倒木を除去し、階段を作り、3年かけて、コースを整備しルートマップを作成した。平成13年から発行しているこのマップ「葉山の山歩きコース」は改訂を重ね常に新しい情報を載せていて、今では葉山の山歩きファンの心強いガイドとなっている。

ルートが確立され、それまで以上に山歩きを楽しむ人が増えた現在も、山楽会は定期的なルート調査を欠かさない。常に山の自然が守られ、安全に保たれていることを点検するために、毎月の定例会で山を歩く。携行品に欠かせないのは軍手・のこぎり・ハサミ。行く手を阻むような倒木があれば取り除き、草が伸びていけば刈りながら



歩きにくい場所のロープ張り(左)や倒木の処理(右)



山楽会手作りの道標

進む。沢にかかる橋が傷んでいれば、近くの倒木を探して補修に利用する。これだけの作業を人力で行っている。山道の崩落箇所の修復や倒木の処理、活用などの作業は苦にならない、むしろ楽しいという。山楽会がルートの途中に立てた木製の道標も経年とともに傷んできたが、手書きの道案内には手作りならではの温もりが感じられ、人気のない山道を歩いていて見かけるとほっとする。

山楽会のメンバーには草木や野花に詳しい人、鳥に詳しい人、歴史に詳しい人がそろっている。彼らから話を聞きながら山を歩くのは興味深く実に面白い。ハイキングや親子山歩きの行事に参加すると山や自然に対する知識や関心も深まり、思いもよらずと豊かになる。山を守り愛する心は、きつと訪れる人たちの心にも伝わるに違いない。環境保全の意識をもってもらうことは山楽会の願いでもある。

ぜひ「葉山・山楽会」の活動イベントに申し込んで歩いてみてはどうか。心広いメンバーが温かく迎えてくれるはずだ。



夏には楽しい納涼会

がんばれ！部活に励む中学生

～南郷中学陸上部、駅伝関東大会初出場によって～

浮き足立ったり、気負いすぎてチームワークを乱す者など誰一人いなかった。みんな練習しており、自分の仕事をきっちりこなし、たすきをつないでいった。

去る12月3日、駅伝関東大会初出場を果たした南郷中学陸上部。結果は初出場ながら33校中16位、一時は神奈川勢のトップを走ったという堂々としたもの。だが顧問の水落勝彦先生は、成績より何より、選手たちのしつかりとした走りっぷり、精神力に最も感心したと話す。

実はこのチーム、前年も関東大会出場を期待されていた。実力を生かせなかったのは「結果を意識しすぎたせい」（水落先生）。順位を上げることだけ考えたあげく焦りが出たのか、前哨戦となる県大会で力を発揮できなかった。相当悔しい思いをしたという。その経験が生徒たちを変えた。とにかく自分の力を出し切るう、結果は後からついてくる——その思いで気持ちが一つになった。選手それぞれも、チームとしても、山を一つ越えたということだ。

それにしても2、3年前まで小学生だった子供たちである。中学生というのは心も体も急速に成長する時期だとあらためて感じる。その大きな原動力の一つが部活である。自分たちで決めた目標に向かい、生徒は日々、休みを削りても



南郷中学校陸上部のみなさん

練習に励む。世間では部活に時間を割き過ぎという声もあるが、子供の「成長したい」という本能を応援したい、と素直に思う。

その意欲を指導するのは教師だが、前述の水落先生は「子供を伸ばすのは生徒同士のつながり」だという。中学の部活をとおして、子供は自ら率先して練習することを覚えていく。それは口で教わることではなく、先輩の姿を見て学ぶものだ。物事に向き合う姿勢も、壁の越え方も同じく。そこには目に見えない成長のたすきがある。

今回、関東大会出場を最も喜んだのが、そんなたすきを代々受け継いできたOBたちだったという。また、陸上部とは関係ない同級生も自分のことのように感激してくれた。みんなそれぞれの場所で、別の部活で、同じようにがんばっている。だからこそ気持ちがわかる。人と人とはそうやってつながることができるということも、生徒たちは学んだに違いない。

——そして4月。今年も葉山の中学校の各部活に新入生が入ってくる。たすきをつなぎ、自分自身も大きくなるために。

小学生公式ドッジボールチーム 万里一空！葉山レアーレ

誰もが知っているドッジボールだが、細かいルールがあり、競技ドッジボールとして年に2回県大会を経て、全国大会が行われていることはあまり知られていない。神奈川県内でも三十数チームあり、年間をとおして交流試合や大会などが活発に行われている。スポーツ界では珍しい男女混合チームが一般的で、性別関係なく活躍できることも魅力の一つだ。

試合は5分間。早いパスまわしで、相手チームのかたい守備をくずし、アタックを決める。6年生になると時速80キロ以上を投げる選手も出てきて、スピードと迫力、チーム力で勝利をもぎ取るエキサイティングなスポーツだ。

「葉山レアーレ」は、17年4月に発足。もともと横浜のドッジボールチームに所属していた子どもたちの保護者が葉山でチームを作りたいと立ち上げた。標語は「万里一空」。目標を見失わず励み、頑張り続けること。口コミだけでメンバーが少しずつ増え、現在は1年生から6年生まで17名となった。

初心者が多く、ルールを覚え、基本練習を続けるなか、他



力を合わせてキャッチ！



神奈川県大会開会式

チームから声がかかるようになり、4チームほどが集まる交流試合や各地域のドッジボール協会が主催する試合など、17年度は東京、静岡など月に2回ほど遠征に出かけた。一勝は遠い。でも、選手たちはめげずにその一勝を目指して練習を続けた。

ユニフォームができて、横断幕ができ、人数も揃った1月の神奈川県大会。優勝チームは全国大会への出場資格が得られる特別な大会。6年生は最後の県大会となり、並々ならぬ決意でコートに立った。予選ブロック上位2チームが決勝トーナメントに進めるなか、レアーレは公式戦での初勝利、貴重な一勝をおさめた。

「葉山レアーレ」の歴史は始まったばかり。さらなる勝利を目指して、選手たちはコートに向かう。



勝利をおさめた瞬間！

